

# 酒田の農業の今後

東北公益文科大学

課題解決型インターンシップ報告 A1班

井上 稜也

斉藤 利倫

佐藤 あかね

森田 修冬

岩田 健吾

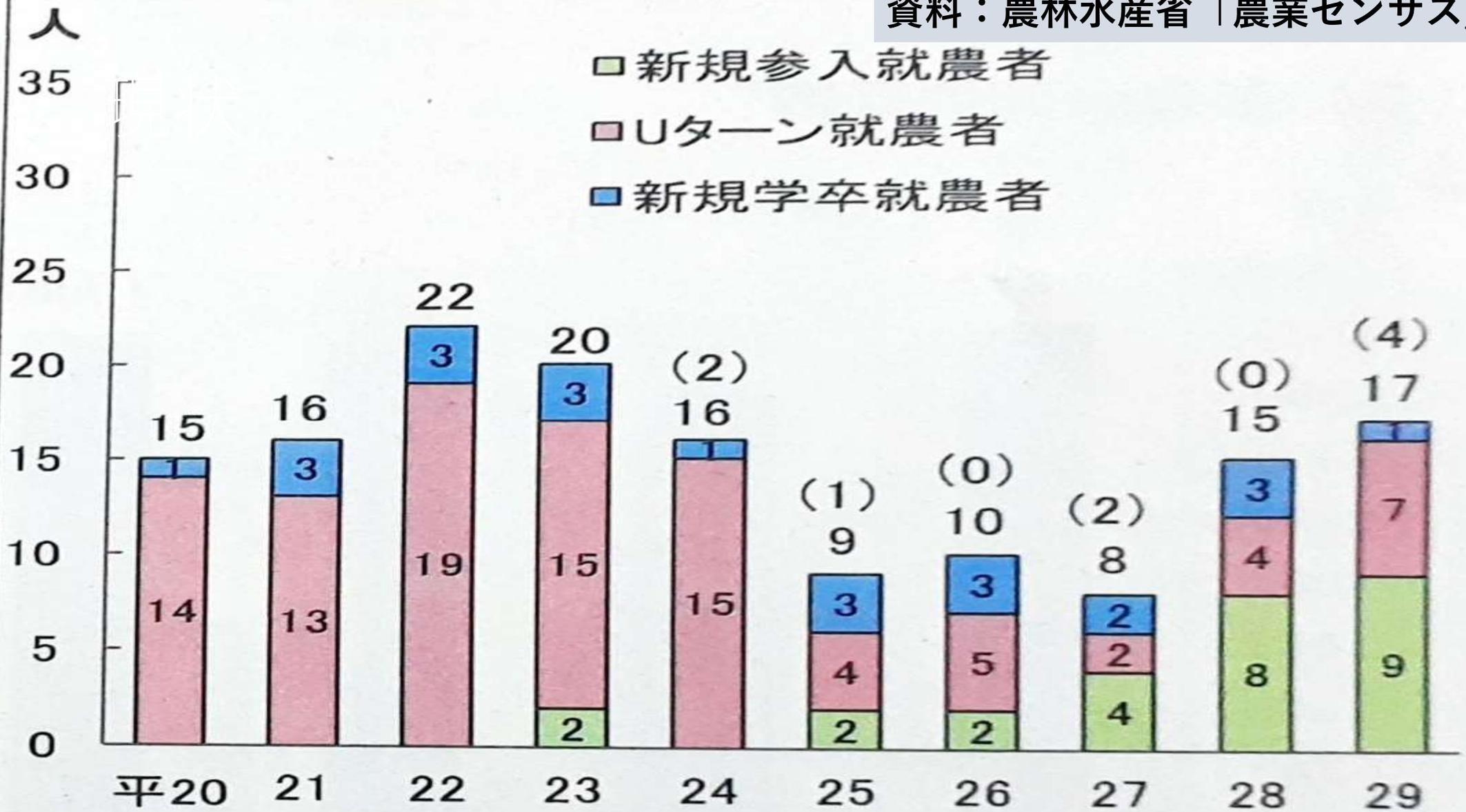
# 目次

1. 現状
2. 目標
3. 検討する手順
4. アンケート調査の実施と結果
5. 展開すべきだと考える施策
6. その施策がもたらす効果
7. 農業の重要性

今回解決するために取り組んだ課題は、、、

「酒田の新規就農者を増加させるためにはどうするべきか？」

資料：農林水産省「農業センサス」

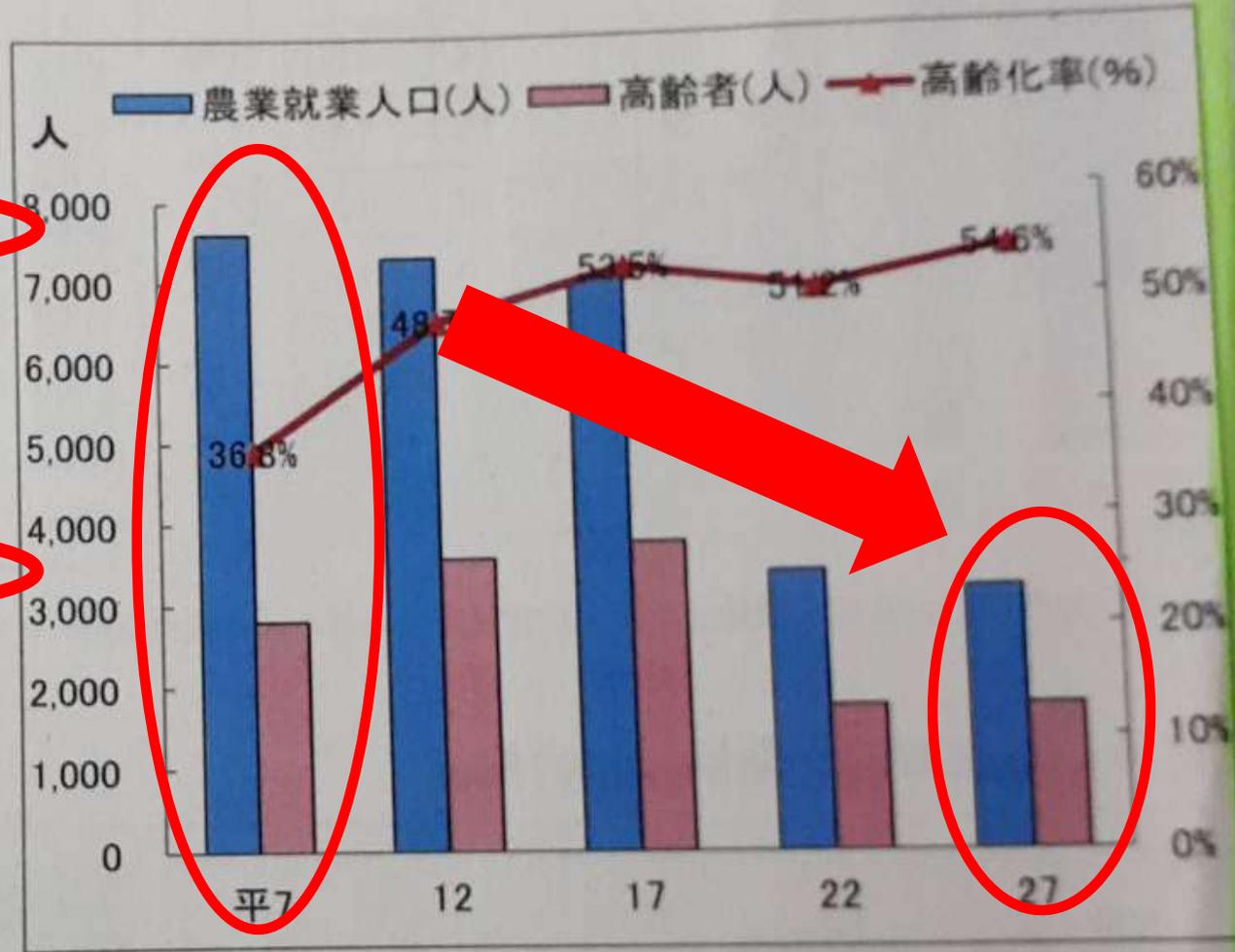


## (2) 農業就業人口と高齢化率の推移

単位：人、%

	農業就業人口	高齢者	高齢化率
平7	7,606	2,799	36.8
12	7,293	3,553	48.7
17	6,985	3,737	53.5
22	3,354	1,718	51.2
27	3,130	1,708	54.6

資料：農林水産省「農林業センサス」



※農業就業人口：自営農業のみに従事した者又は農業とそれ以外の仕事の両方に従事した者のうち、自営農業が主の者をいう。  
 高齢者：65歳以上の農業就業者をいう。

目標

酒田の新規就農者数を  
前年度の2倍にする

# 企画を検討する手順

①酒田で実際に農業をしている人へアンケートをする



②実際に酒田で農業をする上で不足している部分が見えてくる



③不足しているところを補う形で企画を検討する

# ①アンケート

- ・ 対象 : 酒田市で農業をしている人
- ・ 質問項目
  - (1) 酒田で農業をするメリット、デメリット
  - (2) 農家を子供に継いでほしいか
  - (3) 農業をしている中で学びなおしたいと思うことは？
  - (4) 農業について酒田市の現在のPRは適切だと思うか？

## ②農家の本音（1）

### （1）酒田市で農業をするメリット、デメリット メリット

- ・砂丘地を生かしていろいろと対策をしながらできる。
- ・土壌が良い。
- ・米を作るのに適した環境。
- ・冬に雪があまり降らないため雪害が少ない。

**栽培する環境は良い**

## ②農家の本音（2）

デメリット

- ・ 都会までの輸送料が高額→都会では売りにくい
- ・ 風が強い→ビニールハウスの破損
- ・ 給料の問題

**地理的な問題**

## ②農家の本音（3）

### （2）農家を子供に継いでほしいか？

- ・ 継いでほしい。
- ・ 農業一本で暮らせると断言できないため言えない。
- ・ 無理やりではないが継いでほしい。
- ・ 子供が小学生だが、継ぐと言ってくれた時は嬉しかった。  
本人のやりたいことをやらせたい。

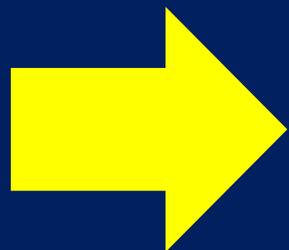
**農家を継がせたい**

## ②農家の本音（４）

### （３）農業をしている中で学びなおしたいと思うことは？

- ・ 専門的な知識
- ・ 「現場」 農業は机で勉強するものではなく、積み重ねで学んでいく。
- ・ 確定申告をする上で簿記を学んでおけばよかった。
- ・ 農協の組織のことなど。

## 経営者となる



利益の計算（簿記）など、経営のスキルを学びなおしたいという人が多数。

## ②農家の本音（5）

### （4）農業についての酒田市のPRは現在適切だとおもうか？

- ・まだまだ不足している。農家の人たちに寄り添って作ってほしい。
- ・不足している→できないのなら自分たちでやるしかない。
- ・庄内のお米のPRは良い。しかし米以外が弱い。
- ・市長をはじめ、最近はPRに力を入れていると思う。しかし、メディアへの露出をもっと増やしてほしい。

**足りない**

### ③酒田の農業支援で不足している点

様々な意見、考えがあった...その中でもどの農家さんでも共通して持っていた考え...

**経営の手法を学  
びなおしたい！**

## ③酒田の農業支援で不足している点

### 現状

補助金

アンテナショップなどでのPR

### 今後追加すべき支援

- 農家の人と市との話し合い  
(実際に農業をしている人の要望を把握する)
- 若者への呼びかけ
- 経営塾の開校
- 農家の人への情報伝達の強化

農業の基礎から経営や  
地域の特色まで全てを  
学ぶことができる学校

# どのような学校か？

- ①農業の専門知識、技術を習得
- ②地域に合った農業の手法の習得（現場での判断力向上）
- ③農業経営の手法習得
- ④社会人でも通うことができる
- ⑤農業求人への掲示→新規就農者と現役農業従事者とのマッチング

農業の基礎

全てを学ぶこと  
ができる学校

農業の経営

地域の特色

# 企画を考える上での対象者

若者（県内外問わず、高校卒業または大学卒業をした人）

農業に興味のある人

現役の農家の方

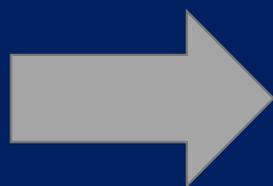
使用する資源

研修圃場



**耕作放棄地**

経営手法を学ぶ教室  
(建物)



**空き家**

# 見込まれる効果（メリット）

- 酒田市への農業支援のイメージアップ
- 新規就農者の継続的な農業経営
- 酒田の農業の経営モデルの確立
- 農業従事者同士の横のつながりの強化
- 市民が農業に触れる機会の増加

# デメリット

- 圃場整備、建物の整備、改修をする必要がある（時間）
- コストがかかる
- 酒田で農業をしている人全員に意見を聞いてはいないのでどれだけ求められているのかは不明確

# デメリット解決方法

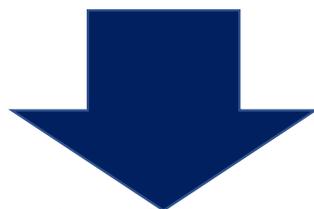
コストについて→ **市民ボランティアの募集**

市民の声の不明確さ→ **農業従事者への全数調査**

## 参考文献

- ・ 酒田市 『酒田市の農林水産業』 酒田市農林水産部、平成30年7月

酒田の農業のイメージ  
アップをする



農業をはじめたくなる  
まちへ！